

取組手法の事例について

1 抽出の視点

資料 1 において整理した取組手法については、府中市に限らず、各自治体が抱える課題（施設の老朽化、ニーズの多様化、健全財政の維持等）に応じて全国的に取組が進んでいます。

本資料では、資料 1 で示す取組の内容がイメージ出来るよう、全国的な事例をカルテ形式で取りまとめました。事例は以下の視点に留意して抽出しました。

- ・ 地方自治体による取組であること
- ・ 全国的に知られている取組であること
- ・ 整備時期が比較的新しいこと

表 1 取組手法の一覧

手 法	内 容
集約化	① 類似する複数の施設を集約
	② 複数の専用施設を共用施設へ集約
複合化	① 機能の異なる複数の施設を一つの施設に複合化
	② 新設する施設に機能を複合化
転用	① 機能転用により公共施設を維持確保
	② 機能転用により民間サービスを展開

2 抽出事例

抽出した結果を次頁以降に示します。

なお、カルテに使用している図等は各自治体の担当課から使用許諾を得ています。

表2 事例一覧

施設・事業名	場所	取組手法	開業時期	規模			管理運営※	備考
				従前	従後	削減面積		
プラッツ習志野	千葉県 習志野市	集約化-① 複合化-②	R1.11	7,561 m ² (7 施設)	7,338 m ² (2 施設)	223 m ²	指定管理者制度	・公民館、児童館、図書館と同種の3施設を集約・複合 ・付帯事業として、民設民営による共同住宅、カフェを実施
あきた芸術劇場ミルハス	秋田県 秋田市	集約化-②	R4.6	23,588 m ² (2 施設)	22,653 m ² (1 施設)	935 m ²	指定管理者制度	・県民会館と市文化会館を集約
こもれびかん	愛知県 岡崎市	複合化-①	H30.2	3,933.39 m ² (5 施設)	1,975.77 m ² (1 施設)	1,957.62 m ²	直営	・額田支所、額田図書館、ぬかた会館等を複合
子育て支援・多世代交流施設 ふぁみりこらぼ	茨城県 ひたちなか市	複合化-①	H29.10	1,628 m ² (2 施設)	1,621 m ² (該当する機能)	7 m ²	直営	・青少年センターと生涯学習センターの機能移転＋新規機能との複合
I/M市立伊丹ミュージアム	兵庫県 伊丹市	複合化-②	R4.4	8,793 m ² (4 施設)	7,552 m ² (1 施設)	1,241 m ²	指定管理者制度	・美術館、工芸センター、伊丹郷町館、柿衛文庫に加え博物館機能を集約・複合
氷見市庁舎	石川県 氷見市	転用-①	H26.5	県立高等学校	市庁舎 延床 7,890.31 m ²	—	直営	
都市交流施設・道の駅 保田小学校	千葉県 鋸南町	転用-②	H27.5	小学校	道の駅 +宿泊、飲食等 14,236 m ²	—	指定管理者制度	
ちよだアートスクエア	東京都 千代田区	転用-②	H22.6	中学校	アートセンター 延床面積 7,249.72 m ²	—	民間運営	

※直 営 : 従来通り公共が維持管理・運営する方式です。

※指定管理者制度: 多様化する住民ニーズにより効果的、効率的に対応するため、公の施設の管理に民間の能力を活用しつつ、住民サービスの向上を図るとともに、経費の節減等を図ることを目的とした制度。官民連携手法の方式のひとつです。

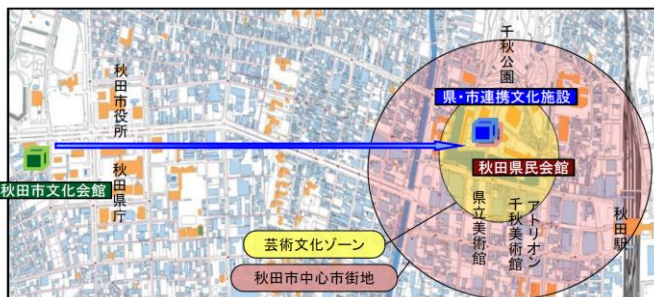
■事例カルテ

施設名称	プラッツ習志野 (R1.11)	取組手法	集約化-① 複合化-②
場所	千葉県習志野市		
事業概要	京成大久保駅周辺1km圏内にある4つの施設(公民館、図書館、児童館等)と、同駅前に立地する3つの同種の施設の機能を統合し、PFI事業により、同駅に隣接する中央公園内に2つの新たな生涯学習施設を整備したもの。		
機能・施設	・中央公民館、中央図書館、市民ホール、中央公園、中央公園体育館		
施設規模	<ul style="list-style-type: none"> ・北館：地上4階 延床4,875.52㎡(図書館、公民館、ホール) ・南館：地上3階 延床2,471.65㎡(アリーナ、こどもスペース等) ・駐車場：地上1階 延床1,836.00㎡(153台：地上75台、屋上78台) 		
整備手法	PFI方式		
管理運営	指定管理者制度：習志野大久保未来プロジェクト株式会社		
民間施設	市有地の定期借地権による付帯事業として若者向け共同賃貸住宅とカフェを実施		
削減面積	7,561㎡(7施設) → 7,338㎡(2施設)	削減：223㎡	
取組による効果	○個別施設整備に比べ、総整備費用を削減		

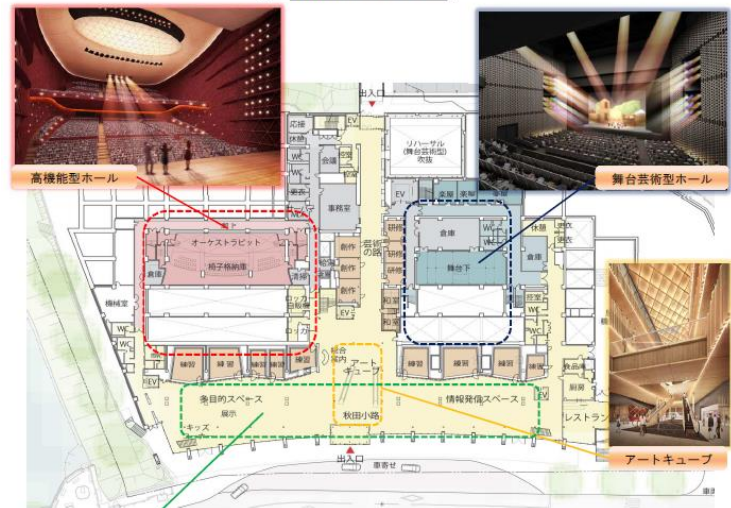


出典：総務省（令和4年9月）「自治体施設・インフラの老朽化対策・防災対策のための地方債活用の手引」

施設名称	あきた芸術劇場ミルハス (R4.6)	取組手法	集約化-②
場所	秋田県秋田市		
事業概要	県と市が文化施設の整備に関する基本協定を締結し、老朽化により施設利用者のニーズに対応することが難しくなった秋田県民会館と秋田市文化会館の両施設の機能を集約し、県・市連携文化施設を整備。		
機能・施設	大・中・小ホール、研修室・創作室・練習室		
施設規模	敷地：13,225 m ² 延床：22,653 m ²		
整備手法	従来方式（県と市が共同整備）		
管理運営	指定管理者制度：あきた芸術劇場AAS共同事業体		
民間施設	なし		
削減面積	23,588 m ² (2施設) → 22,653 m ² (1施設) 削減：935 m ²		
取組による効果	<ul style="list-style-type: none"> ○県と市の共同整備により単独の建替えより整備費と運営管理コストの削減効果が高い ○秋田市中心部という立地を活かし、日常的に人が集い交流できる施設となり、まちの賑わいを創出 ○ホールの一体的・広範な利用が可能となり、これまでは実施することができなかった規模・種類の公演が実施できるようになるなど、発表・鑑賞機会が拡大 		



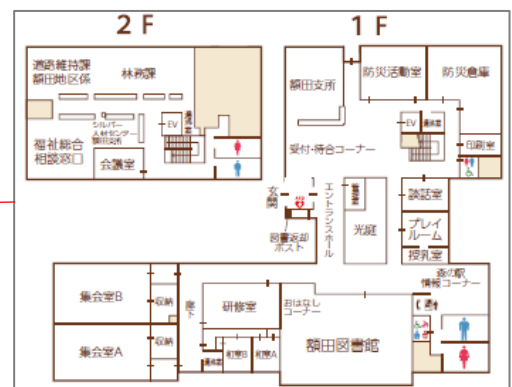
施設計画図 (参考)



【施設概要】	
延床面積	22,533m ²
高機能型ホール	客席数：2,015席 (1階:1,388席 2階:627席) 舞台：間口10間 (約18m) 奥行き10間 (約18m)
舞台芸術型ホール	客席数：806席 (1階:506席 2階:300席) 舞台：間口8間 (約14.4m) 奥行き8間 (約14.4m)
その他	附属施設：楽屋9室 (約100名)、リハーサル室 練習室9室、研修室3室、創作室3室、和室2室 多目的スペース、情報発信スペース、レストラン
附属駐車場	駐車台数：約200台

出典：県・市連携文化施設 (仮称) 運営管理計画 (概要版)

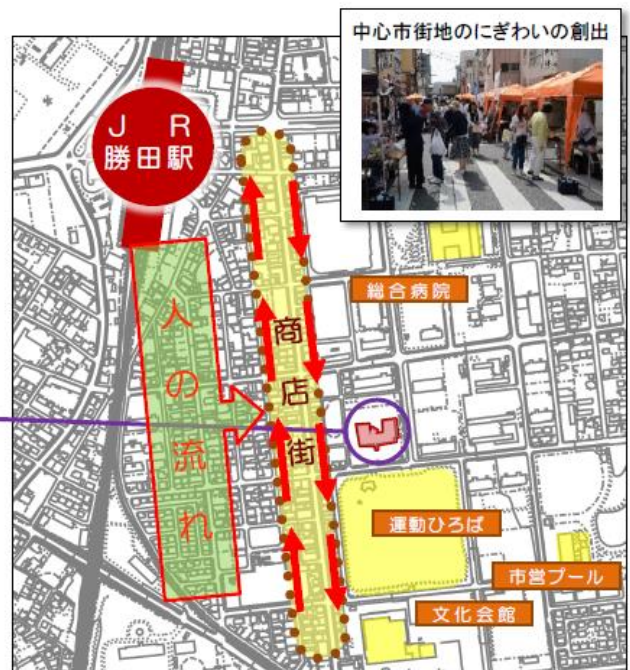
施設名称	こもればかん (H30.2)	取組手法	複合化-①
場所	愛知県岡崎市		
事業概要	額田支所周辺の老朽化した5つの公共施設について、規模の適正化、複合化を図り、機能の拡充をした上で旧支所を複合施設「額田センター」として改築整備。		
機能・施設	〈行政関係機能〉支所、福祉総合相談窓口等 〈市民交流機能〉集会室、和室等 〈社会教育機能〉図書館、森の駅情報コーナー 〈地域防災拠点機能〉防災活動室、防災倉庫等		
施設規模	延床：1,975.77 m ²		
整備手法	従来方式	管理運営	直営
民間施設	なし		
削減面積	3,933.39 m ² (5施設) →1,975.77 m ² (センター：1施設) 削減：1,957.62 m ²		
取組による効果	○利用者の動線や機能の集約によって、施設の利便性が高まり、効率性が図られ、一体的な利用が可能 ○地域住民が一箇所に集まることで、ふれあいや交流が生まれ、地域の市民活動を促進 ○センターを中心とした地域自治・生活拠点、防災拠点が整備され、ランドマークとしての重要性が向上		



出典：「岡崎市 市政だより」等

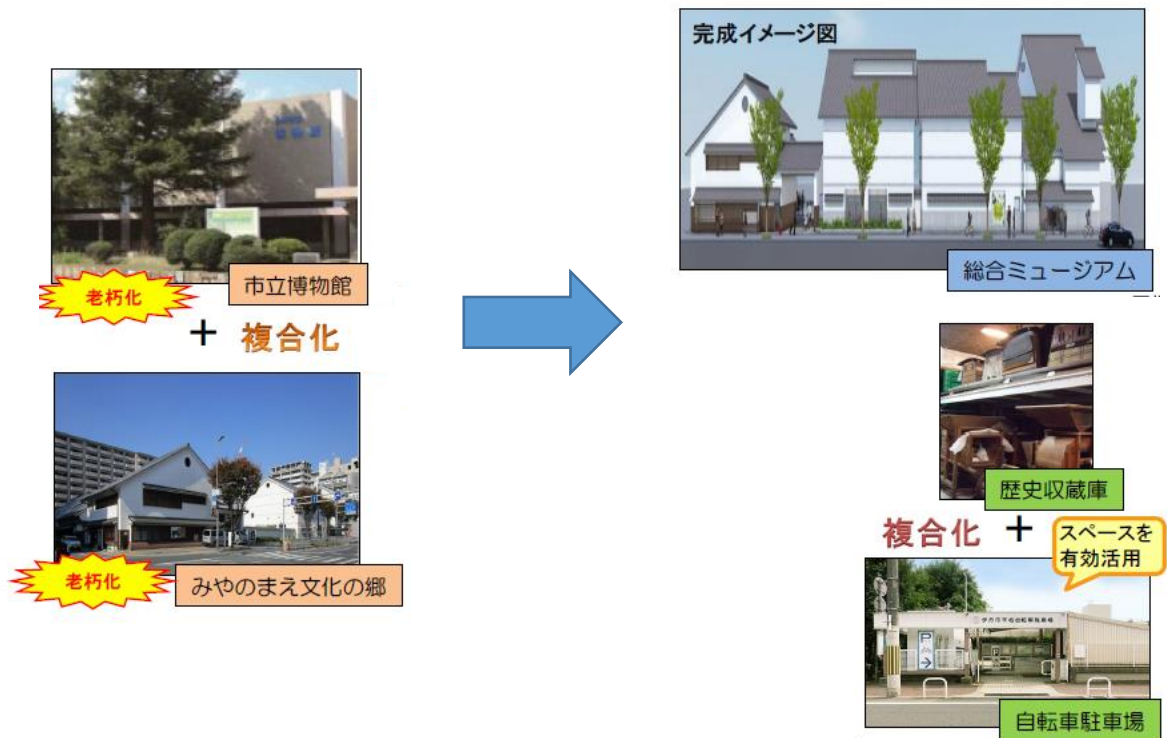
施設名称	子育て支援・多世代交流施設 ふぁみりこらぼ (H29.10)	取組手法	複合化-①
場所	茨城県ひたちなか市		
事業概要	中心市街地に立地している民間企業の遊休施設を市が取得し、老朽化した青少年センター及び生涯学習センターの機能を移転するとともに、新たに子育て支援機能及び地域交流機能を加え、複合施設として整備する。		
機能・施設	研修室、談話室、多目的スタジオ、キッチンスタジオ、講師室		
施設規模	敷地：9,722.66㎡ 延床：3,691.54㎡		
整備手法	従来方式	管理運営	直営
民間施設	なし		
削減面積	(複合部分) 1,628㎡→1,621㎡ 削減：7㎡		
取組による効果	<ul style="list-style-type: none"> ○商店街に隣接する遊休施設を有効活用することにより、利用者の利便性向上 ○利用者の異なる機能を1か所に集め、複合施設として整備することにより、多世代の交流が促進 ○これらによって、コミュニティの活性化を図るとともに、中心市街地のにぎわいを創出 		

○ 民間企業の遊休施設を取得し整備



出典：総務省（令和4年9月）「自治体施設・インフラの老朽化対策・防災対策のための地方債活用の手引」

施設名称	I/M 市立伊丹ミュージアム (R4.4)	取組手法	複合化-②
場所	兵庫県伊丹市		
事業概要	老朽化が進む、美術館や工芸センター等からなる市立複合施設「みやのまえ文化の郷」と市立博物館を、伊丹市の歴史・芸術・文化を発信する新たな拠点複合施設「総合ミュージアム」として再整備。併せて、有効活用されていなかったスペースを市立博物館の歴史収蔵庫として移転活用。		
機能・施設	1F:アトリエ・ギャラリー、2F:歴史展示館、3F:電気室、機械室		
施設規模	7,552 m ²		
整備手法	従来方式		
管理運営	指定管理者制度:公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団		
民間施設	アートスクール		
削減面積	5,332 m ² (みやのまえ文化の郷) → 6,331 m ² (総合ミュージアム) 1,857 m ² (市立博物館) 1,604 m ² (駐輪場) → 1,221 m ² (駐輪場) 計 8,793 m ² → 計 7,552 m ² 削減: 1,241 m ²		
取組による効果	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史・芸術・文化施設を「総合ミュージアム」として一体的に整備することで、各分野の連携による新たな魅力や価値を創出するとともに、観光分野の強化にも期待 ○老朽化した博物館を除却し、既存施設に複合化することで、維持管理経費を削減 ○設備(照明、空調、エレベーター等)の改修・更新を行うことで、施設の長寿命化や利用効率化を実現 		



出典: 総務省 (令和4年9月) 「自治体施設・インフラの老朽化対策・防災対策のための地方債活用の手引」

施設名称	氷見市庁舎 (H26.5)	取組手法	転用-①
場所	石川県氷見市		
事業概要	市庁舎（旧）の老朽化や耐震性能不足、庁舎の分散配置等さまざまな問題を解決するため、閉校となった旧富山県立有磯高等学校の体育館と校舎棟の一部を機能転換し、新しい市庁舎として整備。		
機能・施設	市役所庁舎、市議会		
施設規模	敷地： 20,746.91 m ² 建築： 4,374.37 m ² 延床： 7,890.31 m ²		
整備手法	従来方式	管理運営	直営
民間施設	なし		
削減面積	—		
取組による効果	<ul style="list-style-type: none"> ○建替えに比べ、約 18 億円という大幅なコスト削減 (29.6 億円→11.1 億円) ○所有者である県にとって遊休施設の売却や、維持管理経費の皆減など、財政的な効果 ○市庁舎見学を市内観光へと繋げ、交流人口の拡大や市内経済活性化の起爆剤になることを期待 		



氷見市役所本庁舎（平成26年5月開庁）



津波シミュレーション調査結果（平成24年3月 富山県）

出典：氷見市 HP



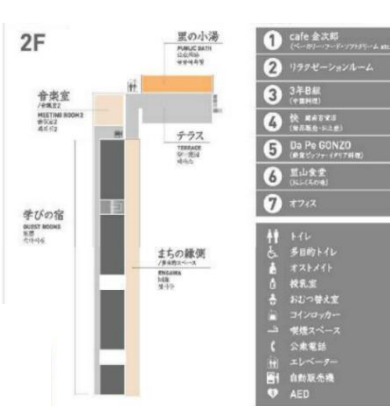
出典：コンバージョン事例集（国交省）

施設名称	都市交流施設・道の駅 保田小学校 (H27.5)	取組手法	転用②
場所	千葉県鋸南町		
事業概要	学校再編（3校→1校）後の廃校の跡地利用として校舎をリノベーションし、直売所や商業機能等を併せもった新たな道の駅として整備。		
機能・施設	駐車場、トイレ、授乳室、情報ラウンジ、直売場、物販・飲食店、簡易宿泊施設、温浴施設、イベントスペース、原っぱ		
施設規模	延床：14,236 m ² 他		
整備手法	—		
管理運営	指定管理者制度：株式会社共立ソリューションズ		
民間施設	宿泊施設、レストラン、ショップ、温浴施設		
削減面積	—		
取組による効果	○町内に人と仕事を呼び込む雇用効果に加え、農林水産物の販売や6次産業化などの地域活性化の起爆剤となる既存施設を活用した新たなコミュニティの核を形成		

【広域図】



【詳細図】



出典:道の駅保田小学校 HP

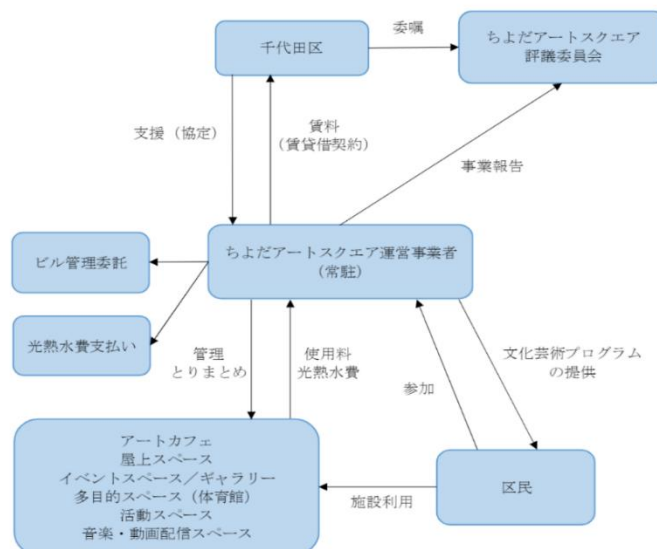


出典: 文部科学省 (令和5年3月)「廃校活用事例集」

施設名称	ちよだアートスクエア (H22.6)	取組手法	転用-②
場所	東京都千代田区		
事業概要	平成22年6月、旧練成中学校にちよだアートスクエアとして「アーツ千代田 3331」を開館し、令和5年3月31日までの間、様々な文化芸術事業を展開してきた。令和3年9月策定の「千代田区文化芸術プラン（第四次）」において、引き続き旧練成中学校をちよだアートスクエアの拠点施設として活用する方向性を決定し、今後の運営方法や整備内容、取り組みの方向性などを示した「新ちよだアートスクエア基本構想」を令和5年3月に策定。今後も、ちよだアートスクエアとして日々、文化芸術活動を展開して行く。		
機能・施設	シェアオフィス、ギャラリー、スタジオ等		
施設規模	延床：7,249.72㎡		
整備手法	—	管理運営	民設民営 (令和5年3月31日まで) 合同会社コマンドA
施設概要	地下1階～地上3階と屋上（アートギャラリーやスタジオ、クリエイティブオフィスが入居）		
削減面積	—		
取組による効果	○バリアフリー対策など建物改修工事費の一部補助や建物賃料の減額等の支援を区が行い、アートという採算性が難しい分野において民設民営のアートセンターを整備 ○資産の有効活用や新たな文化芸術の拠点施設として評価を獲得		



運営方法の枠組み（イメージ）



出典：新ちよだアートスクエア基本構想